



## 終わりを迎える学校の 未来につながる環境教育

■活動時期 → 一定期間

■活動場所 → 学校内、物部町

■主な活動メンバー

学校の生徒・教員、各家庭、地域住民

【ホームページ】

<http://www.kochinet.ed.jp/odochi-h/>

### (取り組み内容)

#### ◆体験学習のススメ

体験を通して直に自然に触れることで、現状が把握でき、  
どういう取り組みが行われているかを学ぶことができる。

- ・1年生：炭焼き体験～その炭を使って学祭で販売。  
自然の物の有効活用し化石燃料に頼らない。  
山から燃料をとれば森林が荒れない、
- ・2年生：教育の森として間伐体験  
2年生全員が参加し、山の状況を自分たちの目  
で学ぶ。  
ずっと続けてきたが昨年で最後となった。
- ・昨年は大荒れの滝が見えるよう間伐を行った。

#### ◆地域との交流

- ・毎年1年生が地域の人達とEボート組立～試乗を体験
- ・昨年度、第1回 森・川・海つながりサミットを開催
- ・他校の生徒を交えて物部の自然を再認識し、環境の大切さを学ぶことができた。

#### ◆日常の意識付け(習慣・行動)

使っていない部屋の電気を消したり、ゴミの分別を習慣的  
に行うことで、日ごろからの生活を見直し、長い目で見て  
意識の向上に努める。

生徒達は、夏休み中でも家庭内の省エネに努めており、お  
風呂の残り湯も洗濯・トイレに利用している。

また、生徒の活動に合わせて保護者も行っている。

#### ◆成果

19年度は約2000kgのCO2削減に成功し、約5万円分の  
電気代が浮いた。浮いたお金は学内図書購入に利用



体験学習の展示



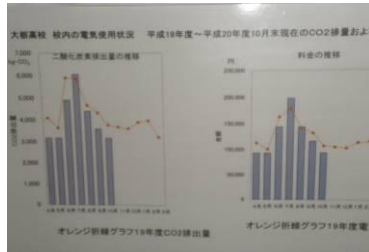
森・川・海繋がりサミット

(うれしかったお話)

- ・ジュースのパックはつぶして一定の場所に置くように決めてそれが定着したこと。
- ・無駄なことが減り、ゴミが減ったこと
- ・生徒主体で出来るようになり、生徒が一つのことを全員で出来るようになったこと
- ・簡単な事でも全員で行えば意識の向上が図れたこと



取り組みの内容や成果はしっかり掲示



掲示したCO2と  
電気使用量のグラフ



学外へは広報紙を発行



意識を高めるエコ冊子コーナーも

◆取り組みへの想い

現状のままでは、今の生徒達が親の世代になる頃には、現在と比べて環境が悪くなっているかもしれない。そのようにならないように、又はその対策のために、現状を分析し、課題を解決する力を高校3年間の教育で身につけておいてもらいたい。

◆取り組みを進めるためのポイント

- ・大人が手を出しすぎないよう生徒の力を信じ、生徒を前に出し生徒がやって行く様に進めていく。
- ・次から次へとやると中途半端になってしまうため今やっていることをうまく使う。
- ・時には勇気を持ってやめることも大切
- ・学校全体で取り組み（生徒+教員+家庭）、期間を決めて行う。
- ・見た目は豊かな自然も入ってみれば荒れていることが多い。体験してみることで現状や対策が見えてくる。
- ・温暖化対策は身近にできることを行い、成果を関心のある数値に置き換えて見えるようにする。
- ・地域との繋がりを大切にする。

◆県民の皆さんに一言

物部は自然に恵まれた良い土地ですが、それが当たり前物ではないです。  
恵まれた自然が保てるように皆さんも頑張ってください！